

明善同窓会 関東支部 会報

発行：明善同窓会関東支部会報委員会
連絡先：meizen.dosokai.kanto@gmail.com
https://meizen.tokyo



ご挨拶

関東支部会長 昭和51年卒 内田直人



明善同窓会関東支部の活動に日頃よりご支援、ご協力いただき感謝いたします。昨年7月の久留米水害では甚大な土砂災害も発生し被災者・関係者の方々にお見舞い申し上げます。能登半島地震や羽田空港事故と暗い年明けでしたが、賃上げや株価最高値など明るい話も出てきました。関東支部でもコロナ後の明るい話題づくりに活動を進め、昨年に続き盛大に総会、懇親会を開催することとしました。奮ってご参加いただきますようご案内いたします。

今年は6月2日(日)、中央大学駿河台キャンパスの最上階19階のレストランを貸切、従来の100名超の規模で開催いたします。毎回ゲストをお招きし、ここ2年ミュージカル俳優の平山トオル君(平成17年)、中川絵理香さん(平成14年卒)と素敵な歌と話を聞くことができました。今年は、本同窓会会長、また久留米大学学長の内村直尚様に「よい睡眠の話、適切な睡眠が健康や幸福度の向上をもたらす」と題して講演をいただきます。ぜひ総会・懇親会へお越しいただき、筑後弁で旧交を温めていただければ幸いです。

さて、明善関東支部に限らず在京他校同窓会でも若い同窓生の同窓会の認知度や参加が少ないと聞いています。そのために参加してみたい、参加してよかったと思われる同窓会活動を目指しています。今春の卒業生に関東支部や総会の紹介を行い、大学進学あるいは4年後就職の時に関東支部に興味を持ち参加してくれることを期待しています。また今回の総会懇親会の運営は現役学生や若い同窓生での交流を進めべく結成した学友会(旧学生の会)で行っていただくこととしました。これをきっかけに若い方々の交流の広がりを通じて、同窓生の輪がさらに広がることを期待します。同窓生の皆さんへは毎年この会報を通じて情報

発信をしています。さらにタイムリーな情報をお届けすべく昨年10月から「関東支部メールマガジン」を開始、約700名の方々へお送りしています。同窓生の幅広い活動を案内紹介、個展・リサイクル・野球部OB交流戦など、また国内外で活動活躍する若手同窓生の応援をお願いしてきました。

地元久留米を離れても同級生、先輩・後輩との交流を通して、懐かしい地元や明善時代の思い出を語り合うことで旧交を温め続けられる同窓会を目指し、ひいては母校の発展や卒業生の活躍を願いつつ活動して参ります。引き続きご支援ご協力よろしく願っています。

健やかな睡眠で幸せをつかむ

同窓会長 昭和50年卒 内村直尚
明善同窓会関東支部の皆様におかれましては、同窓会の運営にご指導・ご鞭撻をいただいておりますこと、心よりお礼申し上げます。



昨年10月7日(土)、第56回明善大同窓会を創世において無事に開催いたしました。第53回、第54回の中止を経て、一昨年の第55回の開催は感染拡大予防を講じた式典のみの開催でしたが、昨年は3年ぶりにようやく恒例の大同窓会を開催することができました。会場では、往年の友との久しぶりの再開を喜び、共に語り合い、触れ合う姿が多く見受けられ、コロナ前を思い起こす賑やかな大同窓会となりました。前年までのコロナの時代に、苦渋の決断であった開催中止や、感染対策に苦慮した開催という経験があったからこそ、開催できたこと自体が喜びとなつて、一層の感慨深さを感じたように思います。ところで、明善高校では2005年より午睡(昼食後の10分間の仮眠)を開始して、現在も継続しています。当時の明善高校生徒の平均睡眠時間が5時間45分で、午後の授業中、我慢できない強い眠気を感じる生徒さんが約90%を占めていました。

明らかな睡眠不足がみられるため、その対処法として午睡を取り入れました。また、毎年4月に新1年生に対して睡眠の重要性と規則正しい生活リズムの効用について講義を行っています。受験やクラブ活動の結果にとどまらず、人生を健康で幸せに生きる方策として「睡眠は宝」であることを力説してきました。最近は大谷選手が「睡眠が心身を回復して最高のパフォーマンスを発揮する一番の方法である」とコメントしたり、睡眠の質を向上すると宣伝するヤクルト1000が売り切れたり、企業でパワーナップ(昼寝で活力)が取り入れられ、睡眠の効用が叫ばれてきています。さらに、2024年2月に厚生労働省が健康寿命を延長するための睡眠ガイドを世代別に公表しました。20歳から59歳の成人は6時間以上の睡眠時間を確保することが、また、60歳以上の高齢者は8時間以内の床上時間(床に横たわる時間)を守ることが生活習慣病、心血管イベント、癌、うつ病、認知症等の予防となり、健康寿命を延長し、死亡リスクを低下させることをエビデンスに基づき発表しました。

もし人生が100年とすると、その内の約30年は眠っています。30年の眠りを大切にする人が覚醒している70年の生活の質(QOL)を高め、幸福感を向上させます。すなわち、睡眠を制する者が人生を制するのです。明善同窓会の皆さん、是非、健やかな睡眠で幸せを掴んでください。

今後同窓会会長として明善同窓会および明善高校の更なる発展に少しでも寄与出来るよう励んで参る所存です。至らない点も多々あるかと存じますが、会長を始め同窓会関東支部の役員の皆様、会員の皆様には引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げますと共に、皆様の御多幸と御健勝をお祈り申し上げます。

ご挨拶

校長 山口隆嗣



明善同窓会関東支部の皆様におかれましては、日頃から本校並びに本校生徒に對し、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。さて、令和5年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、学校では行事を含めた教育活動全般を、ほぼ元通りの形で実施しようと取り組んで参りました。全日制では文化発表会、大運動会、修学旅行等、定時制も生活体験発表会、文化祭、修学旅行と、ほとんどの学校行事を実施することができました。その全てにおいて、生徒たちが元気に取り組む姿、そしてその笑顔に元気をもらうことができました。

とりわけ大運動会は、昨年度の3年ぶりの本格実施を受け、より磨きのかかった見事な出来映えでした。先輩から受け継ぐ伝統を見事に体現し、「これぞ明善生!」という姿を見せてもらいました。生徒たちの「底力」を改めて感じることで、きた行事となりました。

また、10月に行った創立記念講演会では現在、テレビ東京で活躍しておられる本校卒業生の豊島晋作氏にご講演をいただきましたが、講演後は生徒からの質問が次から次に出るなど、生徒たちはもとより先生方にも大好評でした。特に生徒たちにとっては、「全国区」で活躍されている先輩の姿は本当に刺激になったようで、実に貴重な機会となりました。

全日制の修学旅行(2年生)は東北・東京を訪れた昨年度から目的地を変え、今年は北海道を訪ねました。実施日の直前に北海道は暴風雪に見舞われ、飛行機が飛ばずかどうかという心配から始まりましたが、幸いなことに4日間はほぼ順調に日程を消化できました。生徒たちにとってはほとんど全員が初めてのスキーではありましたが、講習2日目は天候にも恵まれ、美しい青空の下、新雪の上で本当に楽しそうに滑る生徒たちの姿に私たちもほっこりした気持ちにさせてもらいました。

また、今年度も部活動において、いくつもの部がめざましい成績を残してくれています。化学部放送部が全国高校総文祭に出場し、放送部は第70回NHK全国高校放送コンテストにも出場しました。これに加えて、弁論部、美術部も九州高校総文祭に出場。運動部におきましては、陸上競技部、水泳部も全九州新人大大会に出場しております。その他にも多くの部活動が県大会に進出するなどよく頑張ってくれました。

また、進学実績についてですが、この原稿を書いている時点では、国公立大学の結果がまだ判明していませんが、具体的な数字をお伝えすることができませんが、これまでの模擬試験の結果、大入学共通テスト本番の結果等から推測して、昨年度の東京大学4名、九州大学57名等の実績と並ぶ、あるいはそれ以上の結果を取ってくれるので

はないかと期待しているところです。

現在、学校の方では、推薦入試も始まり、年度末に向けて少々、慌ただしくなっております。3月1日には学校で最も大切な行事とも言える卒業式を行います。今年卒業生の中からも、少なからず関東の大学等に進む者が出てくると思いますので、その折はよろしくお願いいたします。

なお、私事になりますが、私はこの3月をもって役職定年となり、一区切りをつけさせていただきます。令和4年度・5年度の2年間、関東支部の皆様には大変御世話になり、誠にありがとうございました。夏の支部総会に出席させていただきます。折も歓迎していただき、本当に感謝しております。

最後になりますが、今後とも、母校、明善高等学校に対し、ますますのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

第57回明善大同窓会のご案内

実行委員長 昭和63年卒 田鍋浩二

○日時 2024年10月19日(土)

14時開始(13時受付開始)

○場所 ホテルマリタール創世

○スローガン 『時を超え、世代を超えてはぐくむ絆』

明善同窓会関東支部の皆様、いかがお過ごしでしょうか。年明けから能登半島地震、羽田航空機衝突事故と衝撃的な出来事が発生しています。まずは、被災された方々、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。そのような中、日々穏やかに過ごすごのありがたさをあらためて実感しております。

私事ですが、昨年、明善高校の大運動会を見に行くことが出来ました。恒例の応援合戦『白旗の歌』『旧制校歌』と懐かしい歌詞が耳に入ってきて、思わず一緒に口ずさんでいました。30年以上前、自分たちの時代にやった応援歌、演舞が、かなりテンポが上がっていたものの、そのまま引き継がれていたことに鳥肌が立つ思いでした。パネルもあれだけ厳

関東支部総会・懇親会が華やかに開催される



総会模様

7月22日(土)、私学会館アルカディア市ヶ谷にて大学生から80代まで120名の参加者で総会・懇親会が盛大かつ華やかに開催された。新型コロナウイルス感染症のため20年は中止、21年オンライン開催、22年縮小開催、そして今回はコロナ禍前同様に賑やかに開催された。久留米より山口校長、

しく指導され、指導してきた自分たちの時よりも、確実に完成度が上がっていました。事前に、練習時間も限られていると聞き、高を括って見に行った自分を猛省した次第です。『すいませんでしたあ〜』

大同窓会においても、昨年より『集い』『食べ』『飲み』『語らう』というコロナ前、従来の形に戻って実施されています。これまで先輩方が培われて来た伝統を守りながら、何とか自分たちの色を出したいと63会一同、知恵を絞りながら準備しております。皆様方にかれましては、お忙しい日々をお過ごしと思いますが、是非、久留米にお越し頂き、同級生との横の繋がりが、先輩、後輩たちとの縦の繋がりを体感して頂ければと思っております。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。



空閑同窓会副会長も駆けつけていただき、また久留米市内高校の在京同窓会関係者も4年ぶりに招待。山口校長からコロナ禍の学校行事の苦労や生徒達の活躍が報告された。総会後半ではミュージカル俳優中川絵梨香さん(日14卒)が「ミュージカルを楽しく」と題してオペラ座の怪人、オペラ李香蘭などの主題歌の背景を解説の後熱唱し、素敵な歌声に参加者は皆聴き惚れていた。

懇親会は冒頭、久留米市東京事務所田中所長から水害報告と義援金の協力要請がなされ、空閑副会長の乾杯で立食歓談が始まった。筑後弁でコロナ禍での近況、また同郷話題で盛り上がったことは言うまでもない。現役大学生含め若手も多数参加し賑やかさを増した。同窓生から提供の豪華景品大抽選会では学生3名がくじを引き当選者の大歓声があがった。



熱唱する中川さん

恒例の締めの大合唱、秋永佳世さん(S56卒)のピアノ生伴奏で華やかに旧制校歌、新制校歌を、そして応援歌・白旗の歌を別府相談役(S41卒)の見事な巻頭言に続いて皆で熱唱した。最後は瀬戸相談役(S44卒)の万歳三唱で締めくくり、来年も元気に再会することを誓い合い散会した。



校歌斉唱

私の「世界一周」

昭和41年卒 西村和幸

かつて映画界を賑わした、〃八十日間世界一周〃と題する映画がありました。私も四回の世界一周(正確には地球一周)を体験しました。

①一回目は36歳の時、二等航海士で乗船した自動車専用船です。日本で乗用車四千台を積み、南シナ海・インド洋・スエズ運河・地中海を経由して、英国・デンマークでこれらの車を陸揚げしました。その後、ドイツでベンツ車を積み、大西洋を横断してN.Y.市からハドソン川を約二百km遡ったN.Y.州の州都アルバニーでベンツ車を降ろしました。その後、空船でハドソン川を下り、大西洋を南下して、パナマ運河・太平洋を経由して日本に帰着。西回り地球一周二カ月の航海でした。

②二回目は42歳の時、一等航海士で乗船した専用船Bero Oriente号(写真)です。空船で横浜を出港、太平洋を横断してカナダのバンクーバーで製材を積みました。その後、太平洋を南下してパナマ運河を通過し、カリブ海のプエルトリコで製材の一部を降ろした後、大西洋を横断し、フランス・英国・アイルランドで残りの製材を降ろしました。その後、空船で大西洋を南下し、ブラジルでアルミニウム鑄塊を二万トン、冷凍コンテナ(積荷は焼き鳥用の串差し鶏肉)百個を積み、大西洋・喜望峯沖・インド洋・スンダ海峡・南シナ海を経由して日本に帰着。東回りの地球一周四カ月の航海でした。

③日本帰着後の乗組員交代で私は船長に昇進。同じ船で再度、今度は〃船長として三回目の地球一周〃して日本帰着後に休暇下船しました。



Bero Oriente号

④四回目は46歳の東京本部勤務時で、購入予定の中古船二隻を調査する海外出張でした。二隻の船が別々の港ですが同じ時期に入港するタイミン

⑤私は本職「船乗り」ですが、会社勤めの40年間は、本職の海上勤務が15年で、海上勤務の合間に神戸支店・東京本部等、四回の陸上勤務が合計15年でした。残りの10年はフィリピンのマニラ駐在員で現地合弁企業の役員を兼務しました。この合弁企業はフィリピン人船員四千人を配下におき、親会社の船に配乗する業務で、私の仕事はマニラから日本を含む海外への出張が多く、退職時のJAL生涯マイレージは28万マイル（赤道一周の長さだと地球13周に相当）でした。このマイレージは退職後に有効活用させて頂きましたが、残念ながら「五回目の地球一周とはなりませんでした」。

追記 私は15年間の海上勤務で、在来貨物船6隻・コンテナ船5隻・自動車船1隻・鉱石船2隻・タンカー3隻・その他2隻の合計19隻に乗り組みました。この19隻は全て異なる船で就航航路も異なりました。このため海外の寄港地は多岐に渡っており、乗船した船の順に次の通りでした。

（2度目以降の寄港は省略）北米東岸・欧州・豪州北岸・アフリカ南岸・アジア（韓国・台湾・香港・シンガポール）・アフリカ西岸・アジア（インド）・北米西岸・ペルシャ湾・ニュージールランド・アフリカ東岸・南米東岸・地中海・紅海・南米西岸・豪州東岸。これらの寄港地が（南極大陸を除く）地球上の五大大陸を全て網羅していることから、私は15年間の海上勤務で地球上の全ての大陸を巡ったことになり、「これが本当の世界一周ではないか」との考えに至った次第です。

昭和42年上京
その後の檀一雄先生との思い出

昭和42年卒 高山喜一郎

想起こせば昭和42年、明善高校卒業と同時に上京。進学高卒ながら大学受験もせず、親の家業の後を継ぐ決心で、代々木にある服部栄養専門学校栄養科に入学した。通学しながら夜は伯母が銀座二丁目で行っていた九州郷土料理（その当時この飲食業は田舎料理とかおふくろの味の店とか言っていた時代）有薫酒蔵を手伝い、ほぼ最終電車で帰宅の日々。クラスの仲間が授業後麻雀等で遊んでいるのを尻目に、羨ましいと思わないぞとの思いでバイトの毎日。学校で居眠り、先生からよく怒られました。

店には青木繁の末弟の義雄が僕の母の父で、その母のいとこが笛吹童子で名を馳せた福田蘭童。足しげく来店。作家、音楽仲間、文士、有名人が集う店として大繁盛していました。42年の秋には父が久留米の店をまかせて一家で上京、八重洲店開店、両親と共にスタートを切りました。銀座店では檀一雄先生が檀流クッキングを披露。狭い調理場でいろいろ作ってくださった。一番の思い出は石神井の檀宅に呼ばれた時、廊下の端の一坪位の部屋に案内され、珍しか風呂は作ったけん入ってみんねとの声、部屋に入ると熱い。中に山積み

の石の箱、脇の洗面器に水に浸かった月桂樹の枝。これがサウナ風呂バイと。熱い中焼石に葉っぱで水をジュワーツ、湯気があがり、アツーツじつとしばらく熱さで飛び出した事。風呂上がりには炊事場横のテーブルに④の社長からの差し入れの鯨の刺身、日本酒はその当時チョツと黄色がかった色のものが主流。一升瓶も無色、中身も水のような無色透明の輸出用の菊正宗。初めて味わう。旨かあ。その時出してもらった料理は見た事もないものでした。その中の一皿がうまくて、つい「先生これは何ですか？」と聞いたら「喜ちゃんこれは牛のしっぽですか？」

とか豚の頭の部分ですかとか自分の意見を言わない聞き方はダメ。これ何ですかは良くない。」と指摘されたのは凄く印象に残っています。先生は一流品好みでリビングのステレオのスピーカーはタンノイ。アンプはマッキントッシュ。プレイヤーの針はシュアーとピッカリンと言った具合。でも音がおかしいので聞いたら針は消耗品と知らず、こりゃ良つかぞおと言われたけど、後日交換。カメラはライカM3。海外に行くとき持って行つて滞在費が足りなくなり、交換レンズ一式売ったのでレンズ探して来て、とズミクロン何ミリ。ズマリットは何ミリと言った具合で詳しかった。

ある時は寒い時着て行つた僕のセーターが気に入り、帰ろうとすると「喜ちゃん脱いでいかなね」だって。後から奥様から電話で、セーターどこで買ったか教えてと。確かジャンセンの白黒のバルキーヤーンセーターだった。子供っぽい偉大な先生との思い出。

明善と私と建築と

昭和43年卒 池尻 満

私は建具屋の父と建具屋の母のもとで産まれました。私の実家は新築の建物に納める建具屋さん屋号は『矢野建具』。今の私自身の仕事は建築の設計、デザイン、企画そして都市空間の構想等々ですが、その基と云えば、父母そして先祖です。

昭和34〜35年の小学生高学年の頃から、父は建具を積んだトラックに私を乗せ建築現場へ良く連れて行きました。母からは良く将来は技術者になりなさいと言われていました。ただ、私は幼い頃から外で遊ぶことが大好きで、子供心にスポーツ

の仕事が出来ればと憧れておりました。数人集まっては野球の真似ごとを、一人の時は3〜4cm角の木片をボール代わりに打つバッティング遊び又、鉄棒遊びもよくやりました。ただ私は身長が低くスポーツに向いた身体ではありません。でも身体を動かすことが大好きでその他、バレーにバスケ、そして剣道、卓球、サッカー…と何でも大好きです。

ところが明善の3年生の時に大事件が起こりました。クラス対抗の優勝が掛かったラグビーの試合でスクラムを組んだ時に肩を脱臼したのです。それは一つ前の体育時間、ラグビーのクラス内の対抗試合で私は相手チームのゴール直前で無理なタックルをし、そのボールを持った相手チームの選手に思いつき右手を蹴飛ばされ肩を痛めていたのです。まさかそんな事（脱臼）が次の試合中で起こるなんて思ってもいません。

しかしこの事が私の生涯の運命を大きく変えたのです。もうスポーツ選手にはなれません。もう一方で気になっていた建築デザイン、建築設計への道を目指すようになりました。そして今があるのです。

地元の国立大学の建築科への進学が叶わず、滑り止めの東京の大学の建築科へ進みました。今思えば私に一番合っていた大学でした！大学を卒業して入った設計事務所が菊竹清訓建築設計事務所です。菊竹清訓先生と言えば日本では当然として海外でも名の知れた、そう明善高校の大先輩の著名な建築家です。古くはブリヂストン関係施設の改修・設計者として、久留米市役所庁舎、福岡市役所庁舎などの設計者です。私はこの二つの庁舎設計にも携わらせて頂きました。ありがたい事です。（略称）菊竹事務所が私が携わった庁舎設計で忘れられないのが佐渡ヶ島の真野町役場です。3階建て鉄筋コンクリート造りの立派な建物です。（真野町と言えばこれも存知の方はいらっしゃると思いますが、北朝鮮に誘拐された曾我ひとみさんの故郷です）

次に有難い菊竹事務所での仕事は（私が起業独立直前の）J R大森駅前にある西友の最上階に入っているシネマコンプレックス（シネコン）キネカ大森の設計です。（1984年）当時、西友文化事業部とビクター音響と共に創った日本初のシネコンです。今全国に広まっています。幸運な事です。

日本初と言えばカラオケボックスの開発です。開発と言えば大袈裟ですが、本当に大変な仕事でした。中学校と明善高校の同窓で当時大手船会社ナビックスラインに勤めていた江頭君から船輸送のコンテナを再利用してカラオケ部屋への設計の話がありました。そこで地元役場の建築指導課へ相談に行きましたが、自立したカラオケ部屋（後のカラオケボックス）は今までに世にない建築物になるからと当時の建設省へ相談に行く事となりました。ここでも非常に運が良く2人と同じ中学時代の同級生の建設省役人で後に、国交相の事務次官になった竹歳誠君が大きな力を貸してくれました。直後、『建築基準法』に「カラオケ」という項目が加わりました。

私は大学を卒業して50年以上に携わる建築設計の仕事で我が明善高校卒業生とのご縁もあり充実した仕事人生を送らせて頂いております。

明善同期生との楽しき集い！

昭和44年卒 江口和條

昨年夏・7月の「明善関東支部同窓会」に参加した際、明善同期で元バドミントン部のSS君から10月の「明善大同窓会（以下大同窓会）」等のイベントに参加しようとの誘いがあり、参加することにしました。そのイベントは大同窓会前日6日朝の「同期の集り・明善69会（以下69会）」のゴルフコンペに始まり、夕刻は69会による大同窓会の前夜祭、そして翌7日は大同窓会と二次会（69会）、更に翌々の9日は大同窓会ゴルフコンペと盛り沢山なものでした。

そのなかでも、明善3年間を共に過ごした69会

の集り、特にゴルフコンペや前夜祭には卒業後55年経った同期生に会えるとの期待が多いに膨らむものでした。

そして10月5日に久留米へ帰省し、翌6日早朝にSS君運転のレンタカーで元バレーボール部のWS君と小生の3人でゴルフ場へと向かいましたが、車中では朝の挨拶もそこそこに「久留米弁」での舌戦（いじり）が早くも始まりました。

特に小生が久留米における大同窓会や69会に初めて参加する為、小生の過去の所業に対する（いじり発言）をWS君はニヤリとしながら連発しましたが、それに対しての小生は「本件に関しては関係者もあることからコメントは控えます」とあたたかみどこかの政治家風の体でただただニヤリとするのみでした。そのような会話が弾むうちに「八女上陽ゴルフ倶楽部」に到着しました。

早速チェクイン・着替え等を済ませクラブハウスを出てパッティンググリーンに行くと既に数名が練習中です。がしかし何しろ55年ぶりに会う同期もいて、顔に覚えはあるものの名前が出てこないと悶々としながらのパッティング練習を終えました。そしていよいよスタートですが、体調不良で1名不参加となり首都圏、東海、九州から参加した7名・2組のコンペとなりました。各組久しぶりの再会で各自の近況等の会話に弾むなか、1組目のティーショットは4人全員（GoodShot）で、カートにて次打地点への移動中も久留米弁の会話が賑やかでした。続く2組目の同伴2人のティーショットは（GoodShot）でしたが小生の打球は左方向に行き（アチャーの悲鳴）でした。が同伴2人の励まし等により何とかホールアウトできました。

次ホール以降もプレイと会話を賑やかに楽しみなが、70代の7人はスループレイによる18ホールを無事にホールアウトしました。スコアは別として、メンバー間の語らい等は時の隔たりを感じることなく高校生のようには賑やかなものでした。入浴と昼食を済ませた後、夕刻の「大同窓

会・前夜祭」への参加を約し解散しました。

夕刻の前夜祭は日吉町にある居酒屋に久留米、関東、東海等々から20数名が集まり、特に



男性だけだったゴルフとは異なり女性陣の参加により華やいだ雰囲気となりました。参加者には55年振りに再会する人も多くいましたが時の経過を感じることなく明善時代の思い出話や参加してない同期生の近況確認等々を賑やかに繰り広げることができました。そしてあつという間に数時間が過ぎ解散となりました。

今回久留米における同期生との集いに初めて参加して思うのは、多感な10代を良き明善同期と過ごせたこと、また55年経過しても楽しき絆を繋いでくれることに感謝するものでした。

今後も健康等に留意し可能な限り参加したいと願っています。

皇居東御苑散策と大忘年会

昭和44年卒 山浦良久

明善69会（昭和44年卒）の関東地区の有志が、昨年（2023年）の勤労感謝の日（11月23日）に皇居東御苑の散策と、早目の忘年会を行いました。コロナ期間中は控えていましたが、永年幹事の方の御尽力によりコロナ後で2回目の集まりができました。当日は暖かい小春日和で、午後2時に皇居の大手門に10名が集合しました。外国人の方も多く手荷物検査に長蛇の列になっていましたがどうにか検問所を通り抜け、三の丸尚蔵館を右手に見ながら二の丸庭園方面へ進みました。実は三の丸尚蔵館も当初は見学予定でしたが、人気で

予約が早く埋まり今回は見学できませんでした。尚蔵館見学を見込んで定めた集合時間と忘年会の開始時間は変えませんでしたので、皇居東御苑の散策の時間を



皇居東御苑

持て余すのではと心配しましたが、4時の閉門時間まで散策を満喫しました。二の丸庭園から梅林坂を通って天守台に向かいました。天守閣は残念ながら江戸時代初期の火災で消失し土台の石垣だけが残った状態でしたが、当時の威容が感じられました。一般的には天守閣を再建するには、外観や構造がわかる歴史的な資料がないと、なかなか建設が許可されないそうです。

更に散策を続け、数人ずつ連れ添って雑談しながら石室や、松の廊下があつた付近に咲いていた花を眺めたりしながらブラブラ歩きをしました。そうこうするうちに予想よりも早い4時の閉門を告げる放送があり、名残り惜しかったですが、大番所、百人番所まえを通って大手門に戻りましたが、実は4分の1程度しか見ておらず、こんなに広がったとは知りませんでした。行ったことがない人は是非訪問をお勧めします。

散策後の忘年会は、大手門から歩ける距離にある東京駅前のKITTEの中にある博多もつ鍋店で、午後5時から行いました。観光客が歩道にあ



KITTE内のクリスマスツリー

ふれている所を70歳過ぎのグループが、トロトロと歩きながら30分ほどかけて「M」まで歩きました。東京駅の回りでは、以前は年末にミレナリオやプロジェクションマッピングをやっていたが、人が集まりすぎて危険とのことで中止になったそうです。残念ですが再開の兆しはありません。「M」の1階の広場には大きなクリスマスツリーがあり、次々と順番に記念撮影をしており、我々もしっかりと記念撮影をしました。

「M」の中でぶらぶらと30分ほど時間を潰したあと、博多もつ鍋店に12名（内女性3名）が集まり5時から飲み放題の忘年会が始まりました。ワイワイガヤガヤと70歳台のグループとしては元気に、もつでもなんでも出てきたものは全て食べ、飲み放題のお酒をおかわりをして旧交を温めました。高校の同窓生は理系、文系、男性、女性と多様ですので、いろいろと興味深い話しが聞けて楽しめました。

今年は4、5月ごろ、屋根のないオープンスカイバスによる都内観光を、幹事団の方で計画しています。今回不参加だった方も、是非参加をご検討をお願いします。

昭和43年度後期執行部の54年ぶり同窓会

昭和45年卒 中島裕樹（当時の生徒会長）

令和5年6月17日、西鉄久留米の「梅の花」で同窓会が開かれた。昭和43年度後期生徒会執行部、実に54年振り、執行部員23名中13名が集まった。多くは久留米近辺に住し、遠方からの参加は神奈川の古賀君と埼玉の小生のみ。帰省の際は何時も車だという古賀君に同行することにした。

家人は心配する。久留米まで100km以上、年齢による現実との乖離、自己認識の甘さ、高齢者の事故もよく耳にする。当然の危惧だが古賀君は意に介さない。「しょっちゅう帰つとるけん心配なか。オマイは座つとるだけでよか」彼の自信と余裕に委ねる事にする。

6月13日午後4時、小田急線の本厚木駅で待合

せ。駅を出ると古賀君は既に待機。意気揚々、車に乗り込むとすぐに出発、いざ久留米へ。

走り出してドライブプランを尋ねる。「食べて来たけん腹は減つとらん。疲れたら休む。仮眠は取るばつてん場所は決めとらん。到着は成り行き」、こういうのは嫌じゃやない。近くの厚木インターから高速道路へ、新東名で行くという。走って1時間半程、用足しもありSAに寄る。古賀君は夕食は要らないというがこちらは定時の服薬もある。売店でおにぎりと水を買って車に戻る。既にエンジンは始動、元気なうちに往ける所まで行こうという事か、それがいい。

東名から名神に入る頃には日も暮れ只々道路が続いて行く。岡山の辺りで日付が替わるが運転手は疲れも見せず取り留めのない会話が続く。まだ眠くはない、相手するのも同乗者の勤めだろう。道路標識に「九州」の文字が出ると故郷が近づいて来た事が実感され嬉しくなる。

九州へ渡る頃には夜明けが近づき闇も薄らいで来た。暫く走ってPAで漸く休憩。溢れかえる大型トラック、僅かに残ったスペースに駐車、仮眠。のつもりが2人共眠くなく30分程休んで出発。九州の山々は何処か懐かしい、気のせいだろうか。故郷に帰って来た事が実感される。

14日午前5時、ついに久留米に到着、料金所を出て市街へ。が何故か再び料金所。出口を間違えたらしい。どうしたのか、灯りのついてる事務所を覗くが誰もいない。辺りに車が



いないのを確認してUターン。改めて市内へ。

街中は人も車もない。取り敢えずと同級生が営む荘島のコンビニへ。清々しい空気の中で手足を伸ばし話をしてたら殊の外声が響く。マンションに囲まれた駐車場、これはマズイとそこを出る。当てもなく走り回り見つけた東合川のファミレスに入る。眠くはないが疲れた。徹夜など何年振りだろう。それでも古賀君は昨日と何も変わらず元気だ、おかしな男である。

10時に開く市場で買い物して実家を訪ねるという古賀君。流石に疲れた小生は墓参りの前に妹の所で休ませてもらう事にする。送ってもらって長い一日が終わった。

同窓会は盛況だった。保存された卒業アルバムやスナップ写真。54年の歳月を超えて話は飛び交う。旧校舎、中庭、地下食堂、運動場片隅の粗末な執行部室。真面目に騒ぎ意気がついていた記憶と思い、半世紀の隔絶、初老の男女は暫し明善の時に戻る。懐かしいの一言では言い表せない不思議なひと時だった。

フランスでの車いすラグビーとの出会い

平成24年卒 石井 郁

フランスに渡ったのは、2022年の9月である。きっかけは、2021年の東京オリンピックでのインターンだ。観客こそいなかったものの、世界中から多くの人が参加し、世界最大のスポーツイベントを成功させるという一つの目的のもとに働くという環境は当時の自分には非常に魅力的なものであった。

将来はインターンシップではなく生業としてオリンピックに参加したいと考え、2024年にオリンピックが開催されるフランスでの留学を決意した。渡仏後、これまで続けていたラグビーにフランスでも携わりたいたいと考え、地元のラグビーチームに連絡を取ったのが、現在、熱中している車いすラグビーとの出会いである。

大学院のプログラムでポージランドに移住し、車

いすラグビーの大会にテールオフイシャル（タイムキーパーなど）として参加し、オフイシャルという役割でのスポーツへの携わり方に魅了され、ポージランドにパラリンピックに参加するような国際審判が多くいたことから、レフェリーとしてパラリンピックに行くことを決意する。日本に一時帰国した際には、日本代表の合宿に参加したり、フランスでも同様に代表合宿でコロンビアとフランス代表の試合などを担当した。以上が2022年9月から2023年12月までのおよそ1年間の自分の留学の概要である。

というのは、大きな嘘で、ここには人から羨ましがられる経験しか綴っていない。東京オリンピックでのインターンも本当は、大学ラグビーでの肩の故障がきっかけでラグビーから逃げたくなり応募したものだ。留学自体も今思い返せば、就活に嫌気がさし、より面白そうなものを選んだ結果だったのかもしれない。大学でも英語についていけなかったり、プレゼンで恥をかいしたり、レフェリーとしても自分の能力の低さに涙を流したこともある。

さらに、定職につけていない現在では、経済的に自立できておらず、両親のサポートなくして留学、レフェリーの活動は何もできない。

しかし、このような人には誇れない経験をできたことで、世界中にラグビー・レフェリー仲間ができたし、日本にいる時より多くの知識なども身につけられた。また、どのような状況でも物怖じせず、人間としての余裕を持てたように思う。そして何より、地元の福岡ダンライオンという車いすラグビーチームで、選手とチームスタッフをチームで雇用し、障がいの有無に関わらず、チームに関わる多くの人の生活を豊かにする環境を、車いすラグビーを通じて実現するという今後20年の目標も持つことができた。

最後に、車いすラグビーに興味を持ってくださった方がもしいたら、ぜひ連絡ください。

kaoruishi0911@gmail.com

65歳特集「昭和52年卒」

実質的な定年年代の皆さんの特集を毎年お届けしています

◆昭和52年卒 明善会紹介

昭和52年卒 船橋政裕

昨年9月、残暑を感じる品川の高輪荘（有形文化財）で65歳になる明善52年卒の同期会が開かれました（写真）。世の中の的実質引退の時期を迎え、退職する人、たくましく仕事を続ける人、この機会に故郷に帰る人、子・孫のお世話に奮闘する人、ご両親の介護に追われる人、悠々自適に趣味三昧の日々を送る人、様々な近況を伝え合って、旧交を温めました。

この同期会は、ご多分に漏れず関東支部同窓会の幹事年に集まり始め、その活動が盛んになっていきました。この幹事年は、会社での激務や子育て等から解放される時期に符合していて、高校時代の懐かしさに惹かれていくタイミングであったと思います。それから毎年、1、2回の同期会を重ね、時にはテーマパークの特別室で禁断の酒宴を開きながらパレードを鑑賞したり、都会の某所で雅な駿馬を愛でたり、京都・伊勢神宮旅行で枕投げに興じたり、様々なイベントを楽しんできました。たった数年間の付き合いなのに、ただ同じとき同じ場所に居ただけで、同級生にもなったことがないのに、存分に高校時代を共感してききました。これも代えがたい思い出です。

20年近く経過すると悲しい出来事もありました。この同期会を牽引していた、人懐っこく、寂しがり屋の池田和也君が癌を患い、コロナ下数年の闘病の末に、帰らぬ人となりました。ご自宅にお見舞いにかがった際、別れ際に「同期会は宜しく頼む」と手を振っ



2023.9.23 高輪荘にて同期会

ていた姿が忘れられません。池田君が言い出すと、仕方がないなあ、面倒くさいなあと言いながら、みんな付いていったものでした。本当に彼は我々の同期会には欠かせない存在でした。みんなを繋ぎとめてくれた池田君に同期一同感謝しています。今春は、久留米の同期主催でハウステンボスの旅行が企画されています。

改めてみんなで人生の折り返し地点の感慨にひたることになりそうです。それぞれの置かれた環境で、日常生活を日々送っていく。その中で、僅かばかりの幸せを感じていく。これから年数回、同期で集まって、そんな話を語り合っていけたらと思います。

◆魚の陸上養殖

昭和52年卒 溝上 宏

回転寿司のネタとして、マグロを抜いてシェアツォーになっているアトランチックサーモンを陸上で養殖するプラントの開発プロジェクトに携わって3年半になります。

このプラントは魚の卵から成魚（体長1m程度）までを陸上の閉鎖型養殖施設で一貫して育成するものですが、当初は陸上養殖について知識はほとんどなく、築地の魚市場全体を建物で囲んで大きな水処理設備を付ける程度のイメージでした。

いざ、開発チームに入ってみると、小規模のパイロットプラントで卵から成魚まで陸上の施設で育成することに成功したところで、引き続き約20倍の規模の商業プラントへのスケールアップのための課題を一つずつ解決していく段階でした。

人の食べ物は植物（穀物や野菜など）、肉類、そして魚があり、植物と肉類は人間が自身で栽培や飼育を行って資源をコントロールしていますが、魚だけは自然（海）で育ったものを採集している部分が多く、魚資源についても自分たちで消費するものは自分たちで生産する方向に転換すること求められています。（もちろん、ジビエや活魚にも大きな魅力がありますが…）

近年では海上の生け簀などで養殖された魚がシェアの半分以上を占めるようになりましたが、海面での養殖は餌の食べ残しや魚の排泄物による富栄養化や養殖魚が網から逃げ出して生態系を乱してしまうなど自然環境を破壊しているとみなされ、ノルウェーやチリなどの海外の主要な養殖魚の産地ではSDGsの観点からこれ以上の拡大が難しい状況になっています。

一方でヘルシーフードとして魚の需要はこれからますます大きくなり、特にアトランチックサーモンは日本の食文化を追いかけている中国や東南アジアでも消費が急拡大しており、供給が追いつかなくなる見通しです。マグロと同様にサーモンも海外勢に買い負ける日が来るかもしれません。

陸上で魚の養殖は、このような課題を解決し魚の地産地消を実現する技術として注目され、商業スケールの施設の安定稼働に向けて世界中で開発競争をしており、実用化まであと一歩のところまで来ています。

陸上で養殖されたサーモンを肴に皆さんと美味しい日本酒を飲める日を楽しみにしています。

◆ファミリーヒストリー

昭和52年卒 城後克成

久留米での一人暮らしが長かった亡父が福岡市内の住宅型老人ホームに転居し、自分が60歳になったら近くに住むとの約束を5年遅れで果たすべく、子や孫を関東に残し今年福岡市へ転居しました。福岡市の「一人一花運動」に参画し、ひまわりやチューリップを種や球根から育てている自身担当の花壇がある大濠公園や九大教養学部の跡地で今は裁判所や弁護士会館等が建ち並ぶ六本松周辺等を愛犬との毎朝夕の散歩を日課とし、明善の同級生も通うテニススクールで汗を流す等、自由な時間を楽しむ毎日です。また、退職により得た自由な時間を活用して、父の戸籍謄本に記載の出生地（日本統治下時代の台湾花蓮県玉里庄）に、その時代の地番と赤子の父が写る家族写真を頼りにその地を探しに台湾へ行ってきました。台鉄（台湾の在来線）の駅に降り立ち、「秋月」の看板の店を見つけ飛び込み、日本語がわかる台湾人を紹

介して貰いました。祖父が警察官として数年間赴任していた事等を伝えると警察署へ相談する事を勧められ、警察署を訪問すると、受付の若い警察官が携帯電話で日本語がわかる警察官へ連携してくれ、なんと父の出生地であった当時の官舎まで案内してもらうことができました。台湾桃園空港に着陸しSIMカードもモバイルも利用できない状況が判明し、お先真っ暗だった事からするとまさに奇跡的な出会いの連続でした。

今後は、台湾で病死した父の生母の兄弟（私からすると大叔父）が慶應義塾幼稚舎で美術の教鞭をとっていた時代等に描いたと思われる全国の風景画が展示されている各地方の美術館を訪れたいと思っています。

◆田中さんとカーペンターズ

昭和52年卒 永田 健

同級生だった田中千鶴香さんが2017年7月に亡くなった。くも膜下出血による突然の出来事だった。その半年ぐらい前、東京の同窓生で飲んだ時、中高生の頃どんな音楽を聴いていたかという話になった。田中さんは「カーペンターズ！」。大ファンだったという。

田中さんらしいなー、と感じた。カーペンターズといえば、不良っぽさをアピールするのが主流だった当時のロック・ポップス界では珍しかった優等生バンド。成績抜群だった田中さんのイメージとびつたり重なった。

そんなことを思い出しながら葬儀に出てしばらくのこと。ふとカーペンターズのベスト盤を聴いてみた。田中さんイチ推しの「青春の輝き」に始まって、2曲、3曲と聴いていったとき、不意に涙が出た。カーペンターズで泣くとは…。高校生時代の生意気な自分には想像もつかなかっただろう。気負いもかっこつけも必要のない年齢になって聴けば、カーペンターズの良さがよくわかる。やっぱり優等生はすごいのだ。田中さんなら「今ごろ気がついたか？」と言うだろうな、と思った。

◆メキシコの旅

昭和52年卒 磯部聖子

コロナ感染拡大が落ち着き、8月に長男家族が

暮らすメキシコ、サンルイスポトシへ行った。標高1850mの中央高原地帯にある。日本企業が進出し、日本人は高台の近代的な街に住み、ホテルもスーパーも米国資本が多い。子供達は日本人学校がないため現地のインターナショナルスクールに通学している。スペイン語や英語での授業、母親は学校からの連絡や保護者会、ママ友からの連絡もスマホの翻訳機能を駆使し一生懸命に返信する姿があった。日本とは異なる教育環境や授業内容、メキシコの日常生活に適応しようと頑張る若い母親達の姿にとっても感心した。アボカド、タコス、サボテンが美味しく、真つ青な広い空、ラテンの風に吹かれた旅だった。

◆新しく出会えました

昭和52年卒 市原英子

パンデミックが始まったところ、長女に勧められて韓国ドラマを見たのをきっかけに、予想もしていなかった「韓国」日々を送っています。次々と韓国のドラマや映画を見るのは勿論のこと、放送大学で韓国朝鮮史を受講し、韓国文化院で韓国語を勉強し、ハングル検定を受験し、言語を仕事にしてきた身ながらお隣の国の文字さえ知らなかったことに唖然。

更には、K文学を読み、BTSにも魅了され、韓国料理もどきを作り、そして客間だった和室は私の「韓活部屋」になりました。今の夢は、韓国への料理留学です。

◆現役時代

昭和52年卒 木下義彦

堅苦しい話も何ですので、在職中に遭遇した珍事を簡単に紹介したいと思います。

①サンフランシスコの空港で燃料補給を忘れたからと搭乗機から降ろされた。②3泊3日の豪州出張時に、食事9回中7回が機内食だった。③その最終日に予約便が霧で遅れるからと変更後の時間にカウンターに行ったら、霧が晴れたからもう飛んだよと言われ積み残された。④イギリスで高速道路を走行していたら、前走していたボロボロの牽引車の後輪が外れてすつ飛んでいった。⑤ロス出張時に空港への車を頼んだら超ロングボディ

のリムジンが来て魂消えたが、空港での降車時に周囲の人たちも魂消えていた。

◆近況報告

昭和52年卒 黒岩俊行

還暦過ぎれば悠悠自適の生活かと思いきや、働かざれば食つてはいけず、いまだ奉職中の身。日々の暮らしに追われています。何が楽しみかといえばで、昔の上司に誘われて始めた月1回のウクレレ演奏。なかなか上達しませんが、練習後の飲み会を楽しみに続いています。もう一つは、筋トレの再開。コロナ禍で中断していましたが、24時間営業の店舗が家の近くにできたので、人が来ない早朝、出勤前にリハビリ中です。

趣味を持つこと、仲間がいること。これからは、この二つが大切だと思っています。皆さんはいかがですか。

◆アレ(A.R.E.)

昭和52年卒 古賀 毅

高校3年間ラグビー部に所属していました。冬の脊振風の下、颯爽と練習した濃密な時間、ブリヂストン工場からのゴムの薫香、校内マラソン大会一等賞、こ褒美の先輩奢りの沖食堂ラーメン、そして北校舎から響き渡るオーケストラ部によるドヴォルザークの「新世界より」の旋律が青春時の五感および五臓に残存しています。

同期会の集まりは、みんなとともにそれぞれ「アレ(A.R.E.)」の懐古に浸り合う愉しみのひと時です。



懐かしの明善高校(古賀毅氏提供)

◆超高齢母娘旅行

昭和52年卒 副島江理子

40年続いたフルタイム勤務を終え、少し時間に余裕ができたので、夏に思い切って母を海外旅行

に連れて行きました。海外旅行好きな母がまだ行っていないかった憧れのウイーン、10日間の旅でした。60代と90代の母娘旅行でしたが、母の体力を考えつつ、個人旅行でのんびりと夢のような日々を過ごしてきました。娘として長年の恩を返せたつもりでしたが、母がここまで元気だからこそ叶えられた旅でした。日頃は気力の溢れすぎる母に翻弄されていますが、改めて心身共に丈夫で過ごしている母に感謝の気持ちで湧いてきます。その母はこの旅行に味を占めて、来年は北イタリアに行きたいと言いはじめています。どうなることやら。

◆日々の暮らし

昭和52年卒 塚原都子

現在、娘と孫と暮らしています。因みに夫は福岡で実家暮らし。海外を含め、数年前おきに転勤を繰り返し、単身赴任も長かったので仲が悪いわけではありません。ご心配なく。

娘の旦那さんが危険な国へ転勤が決まり、娘と7才、3才の男児と同居を始めました。

娘には仕事があり、孫の世話をほぼすることにしたらまあ大変。自分の体力の衰えもあります。行政の共働き世帯への対応の不備が身につきまします。毎日ヘトヘトで、夜はぐっすり。眠れない人、手伝って。それでも孫は可愛くて、お父さんの帰国が待ち遠しいやら怖いやらのはば馬鹿です。

◆ふるさとの磁力

昭和52年卒 堤 孝二

18歳で東京にきて47年が経過しました。会社生活は東京中心に42年、東京出身の妻と結婚し39年になります。一方久留米に住んだのは7年。こちらで生まれ育った息子達は勿論だけど自分も「こっちの人」、時間の経過からすればそうなります。

なのに久留米に対するこの望郷の念は何だろう。中学・高校という多感な時期を過ごした地の磁力か。来春には会社を卒業し自由な時間が増えるので、これからについてゆつくり悩んでみたいなあ。ふるさとの強力な磁力を感じながら。

◆どうするプロボノ

昭和52年卒 中村亮子

新聞で「プロボノ」という語句を見かけ「プロ

ボノとは何ぞや？」と調べたところ「職業上のスキルや経験を生かして取り組む社会貢献活動のこと」と理解しました。今までもプライベートで知り合った方に「基礎資格は歯科衛生士で今はケアマネジャーです」と自己紹介すると、ご自分の歯の相談やご家族の介護の相談を受ける経験がしばしばあり、その延長で良いのかな？と思ひ至りました。社会に対する恩返しの思いです。

稚拙ですが明善同窓会への歌を作りました。
「若き日に 集い離れてまた集つ
みのり抱いて 遙かあづまに」

◆これからも...

昭和52年卒 野崎貴世美

高校1年の2学期に札幌の高校から編入、卒業後再び札幌の大学へ、その後九州に戻ることはありませんでした。父の転勤で両親も久留米には数年しかおらず、私の記憶の九州は明善の3年弱しかありません。

結婚して関東に住んでいましたが、(2年の時に同じクラスだった)故池田和也さんに声をかけてもらい、関東支部の存在を知り、幹事年を同期の皆さんと共に務めて旧交を温めることができました。それから早20年あまり、現幹事である船橋さんのおかげで今も楽しく集まることができています。私の中の唯一の久留米です。

◆アウトドア志向

昭和52年卒 和智耕市

40歳を過ぎたころから山登りやマラソンを始め、いくつかの仲間とフルマラソンを走れる体力を基礎に、スキーやヨット、キャンプなどにも広げてアウトドアにいきそいできました。しかし仲間の年長者は後期高齢者入り、自分も徐々に体力に陰りがマラソン大会の選抜基準は今や主催者のおもてなしが第一。コース途中でもバーベキューとビールがおいしい「越後謙信きき酒マラソン」はお気に入り。百名山登山には限界が見えてきたので、今年からは百名城にも目標を上げました。そのうち勤めを辞めたら 四国お遍路と東京―大阪間の東海自然歩道は早々に完歩するぞ！と想いは尽きません(変わるけど)。

関東支部ゴルフコンペ開催 幹事 25回友池・26回内田 (S51卒)

新型コロナで中断していた関東支部ゴルフコンペも2022年から再開し2023年も年2回開催された。平日(金)の開催にも関わらず現役組も多数参加してくれた。

第25回大会は2023年5月29日(金)四街道カントリー倶楽部において12名3組で開催された。平坦なコースでもありプレイも全員好調、大半が100切り、ネットも半数は72を切るアンダーパーの好成績であった。優勝は見事、三浦好子さん(S51卒)グロス92

ネット60、準優勝は吉武修一さん(S42卒)86/64。

第26回大会は10月29日(土)御殿場ゴルフ倶楽部、4組13名、H14年卒の中堅選手も参加し同窓の交流も深めることができた。天気は快晴、富士山を背景に集合写真でスタート。富士山眺めながらのプレイで盛り上がるも山岳コースで苦戦もあった模様。優勝は嶋田哲さん(S44卒)、準優勝は前田信洋さん(S44卒)、S44年卒の大活躍でした。

今年も年2回春・秋開催を計画、春は5月24日(金)の開催予定、若い方々の奮っての参加をお待ちします。



第25回四街道CCにて



第26回御殿場GCにて

第25回成績

順位	氏名 (卒年)	TOTAL	HDCP	NET
1	三浦 好子 (S51)	92	32	60
2	吉武 修一 (S42)	86	22	64
3	山下 政晴 (S43)	91	25	66
4	山口 光夫 (S43)	97	31	66
5	友池 哲雄 (S51)	90	22	68
6	別府 秀喜 (S41)	88	18	70
7	江口 和條 (S44)	89	19	70
8	嶋田 哲 (S44)	85	13	72
9	青木 淳子 (S53)	114	40	74
10	原口 勝弘 (S55)	87	11	76
11	内田 直人 (S51)	95	19	76
12	瀬戸 渡 (S44)	89	11	78

第26回成績

順位	氏名 (卒年)	TOTAL	HDCP	NET
1	嶋田 哲 (S44)	85	13	72
2	前田 信洋 (S44)	99	22	77
3	黒岩 強 (H14)	104	27	77
4	本田 匡史 (S55)	87	8	79
5	原口 勝弘 (S55)	92	11	81
6	石永 真一 (H14)	121	38	83
7	内田 直人 (S51)	104	19	85
8	瀬戸 渡 (S44)	100	11	89
9	友池 哲雄 (S51)	109	20	89
10	江口 和條 (S44)	111	19	92
11	山下 政晴 (S43)	112	19	93
12	山口 光夫 (S43)	120	27	93
13	三浦 好子 (S51)	123	15	108

第13回秋明交流戦4年ぶりに開催

昭和42年卒 西依章郎

コロナ禍で中断していた明善高校と秋田高校野球部の交流戦、4年ぶりに第13回戦を11月4日(土)に東京大学野球場で開催した。昨年夏、久留米市、秋田市共に大水害に見舞われる因縁の両市である。これまで明善は2勝10敗と甲子園24回出場(春5、夏19)を誇る秋田に負け越しが続いている。今年こそはと久保田監督(S62)のもと15選手、白地に赤字「明善」甲子園ユニホーム姿で出場した。バックネット裏では別府前監督はじめOB応援団も駆けつけた。

必勝体制で臨むべく、東京大学野球部2年吉田(R3)ははじめ若手が多数出場した。打順は若年齢順が功を奏し初回から長打4本含め6安打で一気4得点、今年は絶対勝つぞで好スタート。20〜30歳強力打線は、1番吉田(R3)、2番藤野(H29)、3番塚本(H29)、4番高尾(H25)、5番笛田(H24)、6番船津(H23)。中盤、両校の好投手、好守備で締まった試合が続



力投する吉田選手



試合を終えて

いた。明善4回には5ベテラン下位打線が奮起、3連打で2得点、さらに勝利が意識された。終盤は吉田投手が登板し逃げ切りを狙うが、さすがの秋田打線爆発、5回には同点に追いつかれる。今年の明善は粘り強い、6回には更に安打と四球交え2点勝ち越し。粘りの秋田も全力で最終回に同点に追いついた。13回で初めての引き分けに終わった。

試合終え上野御徒町の居酒屋で恒例の延長戦、秋高同窓会長の橋本五郎氏も参戦し両軍入り混じりの混戦が続いた。なお前回2019年の延長戦での合意、15回大会は秋田市で開催する予定である。

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	R
明善	4	0	0	2	0	2	0	8
秋田	1	0	0	2	3	1	1	8

○関東支部役員(2024年4月1日現在)

会長	内田 直人 (S51)
副会長	土肥 義政 (S31)
	古賀 啓子 (S41)
	友池 哲雄 (S51)
	山口 務 (S45)
代表幹事	各学年2名 (記載割愛)
学年幹事	古賀 尚之 (S45)
事務局長	五十嵐 美子 (S47)
副事務局長	井手 秀明 (S60)
ゴルフ委員長	伊東 美晃 (S55)
学友会委員長	尋木 浩司 (S61)
監査役	泉 信也 (S31)
顧問	古賀 一成 (S41)
	大久保 勉 (S54)
相談役	別府 秀喜 (S41)
	瀬戸 渡 (S44)
	井上 樹彦 (S51)

編集後記

今回も読み応えのある記事をたくさん掲載できた。同期会もコロナ後再開され、今までも増して楽しい旅やゴルフがされたようだ。54年ぶりに生徒会執行部同窓会では本心に懐かしい話で盛り上がったことと思う。菊竹建築事務所の仕事、船長としてだけでなく数度の世界一周の仕事、有薫酒場物語、苦労とやりがいをつづさに感じることができた。フランスで活躍する石井君、みんなで応援しよう。特集、今年は昭和52年卒の皆さんにいろんな思い出や近況を語ってもらい、同期の絆がさらに強まったことと想像する。これからはメールマガジンも活用してさらに多くの話題を提供していきます、皆さんからの情報提供もお待ちしております。

(NU)